

校長室だより第 24 号（令和 7 年 9 月 19 日）

9 月半ばを迎えても、熱中症を心配しなければならない日々が続いていましたが、今日（9 月 19 日）は急に気温が下がり、大変過ごしやすい日となりました。朝、校門に立っていると、長袖で登校する子が何人もいることに気づきました。

そして、もう一つ気づいたことがあります。

それは、あいさつの声が大きくなったことです。夏休み後の校門でのあいさつは、あまり元気がありませんでした。休み明けだから仕方がないと思い、次の週に期待したのですが、上向く気配がありません。しかし、今日のように気温が下がると元気な挨拶が返ってきたのです。

想像するに、「体が完全に目覚めていない中、強い日差しを浴びて登校するのは大変で、校門で大きな声であいさつする気力はなかった。」と、いうところでしょうか。

「気温」と「あいさつ」の間には、何か法則的な関係があるのかと思ってしまふほど、気温が下がった今日のあいさつはすばらしかったです。

気温の低下も要因だとは思いますが、もう一つ要因があると感じています。

現在、2 年生に読み聞かせを行っています。2 年生は興味深く話を聞いてくれます。その時に『校長先生に力を貸してほしい。今、朝のあいさつの元気がない。2 年生が元気に挨拶してくれると、他の学年のお友達のあいさつも元気になるはず。』とお願いしたこと。また、修学旅行に一緒に行く 6 年生との距離を縮めるために授業を行ったこと。これらのことも「元気なあいさつ」と関係があるのではないのでしょうか。

秋に向けて、元気なあいさつができる小倉小学校であって欲しいと思います。